

夕刊 新報

定価 一ヶ月 三円 三ヶ月 八円 半年 十五円 一年 三十円
 廣告料 一文字 一円 一文字 一円 一文字 一円
 印刷費 一文字 一円 一文字 一円 一文字 一円
 編集者 伊藤 吉雄
 印刷所 常盤新聞社

口一万人 破

近來頗しく家屋人口の増加を見つゝある、小名濱町は過般の國勢調査の際九千余の人口なりしに今や數月にして既に一萬人を突破し尙は非常なる勢を以て増加しつゝある。

小名濱 公益質屋

是れ迄の普通質屋より見れば大體年位位の勉強振りで大衆の爲め時間を延長しては其期限が過ぎ流質の便を計りたいと大變な不足の時が當然質屋の欠損利用され、此の公器を、とし質物が競賣の結果賣出アルもプロモ。

尖端人短評

中村 醫院
中村 三良君

此問題に對し署長さんの御意見と此迄の採た方法に就て御断り下さい。記者、東京の口入業は警視廳で嚴主取締る爲め大丈夫と云ふが田舎ものが安心して身を委すことが出来ませぬ。

中央名士の片鱗

南千住署長 三瓶 警視廳

大小名濱建設と移住者は車の兩輪の如く移住者其れ自身も土地を離れ第二の故郷として居る以上一人の悪へは小名の濱などの長味すらも嫌ふは人情、住み好へ土地の折衷を得ることが第一だ。一而したなら人口二萬の縣一二年内に半歩を打つであらう。

丹野寛平君の今回の勢志に對して衷心より謝辭申述べると共に、其れから

に安心を興へる爲めに精神的に作用を起す、大底は其の精神療法に依りて病人はクローとする徳なる哉、偉なる哉、中村君。既に醫者としての大成を認め人間愛の富に於て十分の満足を得、其愛は後進法として醫界に在、近くは數萬の富を投じて一大病院建設の設計中とか觀じれば時に彼れ中村は幸福の男と折紙をつけるに誰か等儀あらん。

近事片々

小田炭礦 ますく 隆榮

社氏黨警城支部の活躍一般の注意を惹き進出振り華なり四つ倉、大津等の勞資争議には人間愛と云ふ点から見ても祭措や宜し

祝支局開設

小田炭礦 萩原 礦業所 赤井 第二坑

早、陽春接花の期節に向へまして地方の青年子女は地方農漁村の疲弊と相三瓶署長、君の嘶は當面の大問題だ實は私の所へも郷里から古年が好くやつて來る其れで此迄、好く其意見を聞へて見て彼等三瓶署長、まあ大休に於て好くはなつたが法をく、退院すると同時に町有志の希望が斯る名譽をして平町に求仕開業を見るに至ることだ。

難波博士開業

難波 陸博士

且つては警視廳共濟病院長の歸れ空元氣でも出して尖鋭的な網渡り感當でもヤレ四月一日には一齊に小學校職員が移動があつた、縣廳や心地周囲に最も變化が多選さるに連れてマバラつたり、接近すればアラが視へると云ふ結論になるのか

野崎滿藏

野崎 滿藏

浪花炭礦

浪花 炭礦 礦主 佐藤 留吉

平町藝妓組合

平町 藝妓組合

感 泣 (一)

清 園

冬の陽は早く、午後四時一寸過ぎたばかりなのに、もう電燈の光が寒く、その光にキラキラと見え初める...

菓子舗へ 甘へお菓子 百パーセントの 不動澤から白水へ抜ける...

チドリ 大衆的 遊戯場 小名濱中島通り

材木の 御用命は 多少 共 内山材木店 小名濱町

折柄いつも午後五時から 六時頃迄の間に年一日の如く不動澤炭礦から十丁餘りの路を...

花柳便り

千鳥生

今時の女なんて随分づうくしいものさ。尤も女の腕まくりと朝の雨は夕マゲの雨でない...

寶屋商店 化粧品 藥 高名 品 小名濱町中島通り

白石藥舖 藥品 化粧品 小名濱町中島通り

内山時計店 時計・蓄音機 小名濱町古港

小名濱水産 船具一式油類 支配人 平地直保 小名濱町

安田屋 簡易宿泊所 小名濱町西町

池部齒科醫院 齒科一般 江名町

佐瀬醫院 內科 小兒科 花柳病科 沖見町

久保田醫院 內科 產婦人科 小兒科 花柳病科 下横町

木田齒科醫院 齒科 口腔外科 中島通り

赤木易斷所 易斷秘密的ナ 小名濱町松の中

移轉廣告 森西洋濯店 小名濱町上横町

高久病院 平町田町

三井吳服店 新春流行の魁 平町三丁目

西村屋藥舖 藥品醫療器械一式 平二丁目

上田外科醫院 外科 專門 レントゲン科 平町南町

磐城水産工業株式會社 社長 小野晋平 支配人 福尾伊太郎 小名濱町

平川醫院 內科 外科 花柳病科 小兒科 其他一般 江名町

村上吳服店 吳服 太物 洋品仕立物 小名濱中島通り

釜屋商店 良品廉賣に勝る商賈なし 和洋銅鐵金物問屋 平町五丁目

銘酒 清水屋本店 清酒 清水正宗 釀造元 小名濱町

中村醫院 內科 外科 其他一般 電話十八番 小名濱中町

山村醫院 齒科 口腔外科 中町通り 元鈴木齒科の跡

貸切 乘用車 スマヤタクシー部 小名濱町